

## 施策1 ▶▶▶ 子どもの成長と子育て支援体制の充実



### 現状と課題

- 生活環境や家族形態の変化、人とのつながりの希薄化等によって、子育てに対する不安や負担感、孤立感を抱える親が増加している。
- 市民アンケート<sup>6</sup>では、「妊娠・出産に対する支援の充実」、「保育サービスなどの子育てに係る支援や児童福祉の充実」といった子育て支援に関する市民満足度が低いという結果となっている。
- 働き方の多様化などにより仕事と子育てを両立したいという家庭に対しての環境づくりが必要となっている。
- 安心して子どもを育てられる社会を築くことは、将来の地域社会の担い手を育てる上でも重要であり、課題となっている。

### 目指す姿

- 地域で子どもや保護者を見守り・支える体制ができていて、安心して子どもを育てられる環境となっている。
- 滝川市で子育てしたいと思える保護者が増えている。
- 子育てしながら自己実現ができる環境が整い、充実した生活を送ることができている。
- 地域で子どもが元気に遊び、様々な体験をしながら健やかに成長している。



### 施策の方向

- 子どもを育てることに対する不安や負担感を軽減するための取組を推進する。
- 妊娠・出産から子育て期のライフステージに応じた子育て環境の充実を図る。
- 子育てと仕事を両立できるための取組を推進する。
- 子どもが安全で元気に遊べる場所や機会の提供、児童の放課後の居場所を確保し、健やかな成長に向けた取組を推進する。



<sup>6</sup>令和3年9月に実施した滝川市の現状や問題点、将来の方向性について意見を伺うアンケート調査。（P36 参照）

## 施策2 ▶▶▶ 学校教育の充実

### 現状と課題

- 学力については、全国学力・学習状況調査において、全国平均と同等か、平均に届いていない状況にある。
- 特別支援教育への理解の広がりや障がいの概念の変化や多様化等、社会や環境の変化に伴い、特別支援教育を必要とする児童生徒数が増加傾向にある。
- コロナ禍による生活環境の変化に伴う「生活リズムの乱れ」をはじめ、「先生のこと」「身体の不調」「友達のこと」等、多様な原因により不登校児童生徒数が増加している。
- 学校施設の老朽化が進み、快適な学習環境が整っていない。
- GIGAスクール構想<sup>7</sup>により、1人1台端末が整備され、ICT<sup>8</sup>を活用した学習が開始された。
- 小・中学校では児童生徒数の減少が続き、適正規模を下回る状況も見られる。高等学校においては、生徒数の減少と空知管外への生徒の流出により、高等学校の間口の減少調整が続いており、引き続き、魅力ある高等学校づくりに取り組む必要がある。
- 國學院大學北海道短期大学部は、中空知圏域唯一の高等教育機関として、この地域で活躍し将来を担う人材の育成に取り組んでいる。



### 目指す姿

- 「教育のまち 滝川」として、将来の滝川市を担う児童生徒を学校・家庭・町内会などの団体・企業などが連携し、地域全体で育成している。
- ICTの活用や外国語学習等が充実し、義務教育における確かな学力が定着している。
- 適正規模で、これからの学びにふさわしい学校施設が整備されている。
- 特色があり地域と連携を強化した地域内外から選ばれる高等学校が配置されている。



<sup>7</sup>2019年に開始された、児童・生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する文部科学省の取組

<sup>8</sup>「情報通信技術」(Information and Communication Technologyの略)



## 施策の方向

- AI<sup>9</sup>技術などICTを活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- 特色ある外国語教育の充実を図る。
- 地域との連携を強化し、教科横断的な学習の推進や様々な体験プログラムの充実によって地域への愛着や誇りを醸成する。
- いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を推進する。
- 特別な支援を要する児童生徒や個別の事情を抱える児童生徒一人ひとりに対応したきめ細かな支援体制を構築する。
- 滝川市公共施設個別施設計画<sup>10</sup>と連動し、新しい時代の学びを実現する学校施設整備を推進する。
- 英語教育をはじめ、資格取得や進路指導の充実、スポーツ・文化活動の活発化等、魅力をいかし、時代の変化に適応しながら、地域に貢献する高等学校教育を実践する。
- 國學院大學北海道短期大学部と連携し、学生の修学や就職に向けた支援を行うとともに、地域でのフィールドワーク等、滝川の特徴・資源を活用した人材育成を推進する。



<sup>9</sup>「人工知能」(Artificial Intelligenceの略)

<sup>10</sup>財政負担の軽減・平準化や効率的・効果的な施設配置を進め、人口減少等に対応した施設運営を目指すため、施設ごとの具体的な方向性を定めた計画

## 施策3 ▶▶▶ 生涯学習・文化芸術・スポーツ環境づくり



### 現状と課題

- 社会の変化や多様な市民ニーズを踏まえ、関係団体と連携した生涯学習の推進が必要である。
- 文化芸術やスポーツは、市民の心豊かな生活や健康づくりを実現していく上で欠かせないものであるとともに、教育、地域づくり、産業等、社会のあらゆる分野と関わり、地域社会の発展と市民の活力を高めていく貴重な財産である。
- 市民の文化芸術活動拠点である文化センターの閉館に伴い、新たな施設の整備が求められている。
- 子どもや若者をはじめ全ての市民が文化芸術に触れることができる鑑賞・体験機会の充実や市民主体の文化活動への支援を行うとともに、文化勲章受章の岩橋英遠などの作品や各指定文化財等、将来にわたりまちの歩みを示す資料の保存、活用が必要である。
- 児童生徒数の減少に伴い、学校単位での部活動の維持が困難となることが予想されることから、地域・関係機関と連携を図りながら、児童生徒が持続的に文化・スポーツ活動が行える環境の構築が必要である。
- 障がいの有無に関係なく、全ての市民がライフステージに応じた多様なスポーツに親しめる機会の充実や体力の維持・向上に向けた環境整備、スポーツ人材の育成を行う必要がある。



### 目指す姿

- 市民一人ひとりが主体的に生涯学習や文化芸術、スポーツに親しみ、交流することで、心豊かな生活を送ることができ、活力ある地域社会をつくり育んでいる。

### 施策の方向

- 市民の文化芸術活動に関する交流や人材育成、発表の拠点づくりを推進する。
- 子どもや若者をはじめ全ての市民が身近な場所で文化芸術に触れることができる鑑賞・体験機会を提供するとともに、地域の伝統文化が次世代へ継承されるよう、市民主体の文化活動を支援する。
- 地域の文化に関する調査研究を行うとともに、市内にある文化財を適切に保存活用する。
- 学校・家庭・地域が連携し、児童生徒が安心して文化・スポーツに親しむことができる機会を確保するため、部活動の地域移行に向けた取組を推進し、体制を整備する。
- 全ての市民が日常的にスポーツに親しむことができるよう、ライフステージに応じたスポーツ習慣を確立するための環境整備や情報発信、地域におけるスポーツ人材の育成を推進する。
- 小・中学校と連携し、子どもの読書機会の提供と充実を図る。
- 一般財団法人滝川生涯学習振興会などの関係団体と連携し、多様な学びの意欲に応える生涯学習プログラムの提供と充実を図る。